

シンポジウム

Photo: サハリン-1のヤストレブ掘削装置。北方を望む。
/写真提供: 本村真澄

日露関係と エネルギー安全保障

トランプ政権で変わる
エネルギー情勢
存在感を増すロシア

日時 2017年1月14日(土)
16:30 ~ 18:40

場所 立教大学池袋キャンパス
11号館A203教室(池袋駅から徒歩10分)

Photo: サハリン北部のオハ油田と Zotov-1 号井 / 写真提供: 本村真澄

ウクライナ危機、シリア危機、難民問題、テロ、…、不安定化する世界情勢を見るために、ロシアと資源エネルギー価格の動向が一つの焦点となっている。欧米からアジアへの中長期的なパワーシフトに対応してロシアの東方シフトが進む中、日露協力が大きな課題として浮上した。日本にとって、ロシアは既に石油輸入の5%、天然ガス輸入の10%近くを占めるエネルギー供給国である。プーチン訪日後、日露経済協力はどうか進むのか。

これは、二国間の問題にとどまらず、東アジア経済、ひいては世界経済の構造変化にもつながるグローバル・イシューとなっている。統合の維持と金融に不安を抱えるEU、政権交代後の政策転換を模索するアメリカ、外貨建て債務・資源価格・過剰生産に問題を抱える新興国。日露経済協力は、こういった世界経済の課題に対しても、焦点となる。

立教大学経済研究所では、この問題に詳しい研究者、実務家、ジャーナリストにお集まりいただき、日露経済協力とエネルギー安全保障の展望について縦横無尽に語るパネルディスカッションを企画したものである。

登壇者

- 蓮見 雄 (立正大学経済学部教授)
「欧米関係の変化とロシア東方シフトのゆくえ」
- 本村真澄 (JOGMEC 主任研究員)
「ロシア・エネルギー戦略のキーポイント」
- 酒井明司 (三菱商事シニアアドバイザー)
「中露関係は蜜月・安定に向かうのか」
- 杉浦敏廣 (環日本海経済研究所共同研究員)
「ロシアの資源開発と日露経済協力」
- 大野正美 (朝日新聞記者)
「プーチン戦略のねらいと日露関係」
- 櫻井公人 (立教大学経済研究所長)
「問題提起」(コーディネーター)

Photo: コジミノ港 ESPO パイプライン終着地 / 写真提供: 原田大輔

主催: 立教大学経済研究所 後援: ユーラシア研究所

問合せ先: 立教大学経済研究所 TEL: 03(3985)4121 E-mail: r-inst-e@rikkyo.ac.jp